


2004年度 中間期 決算説明会

富士写真フイルム株式会社
2004年10月29日

 本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの注意 業績予想とは異なることがありますことをご承知おき下さい。

2004年度 中間期 連結業績

■ 業績概要

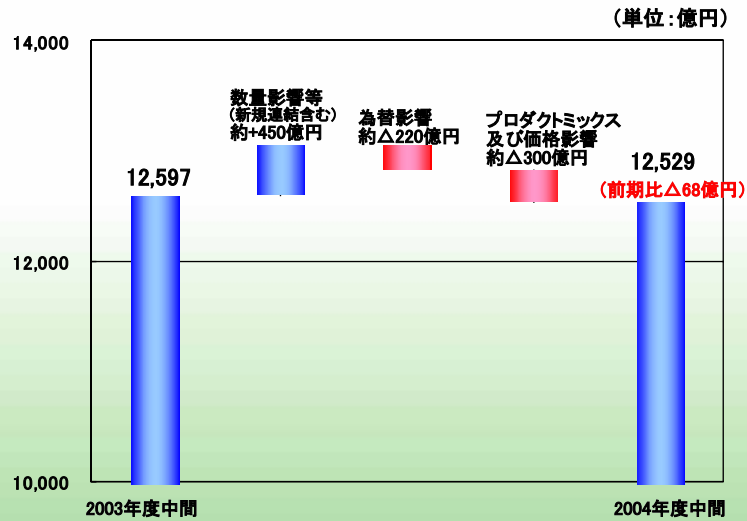
(単位:億円)

	2004年度 中間期		2003年度 中間期		増減	
	割合	金額	割合	金額	金額	%
国内	50.9%	6,375	51.7%	6,510	-135	-2.1
海外	49.1%	6,154	48.3%	6,087	+67	+1.1
売上高	100.0%	12,529	100.0%	12,597	-68	-0.5
営業利益	8.1%	1,013	7.4%	937	+76	+8.1
税引前利益	8.5%	1,059	6.4%	810	+249	+30.7
当期純利益	4.2%	527	3.3%	411	+116	+28.2
為替:米ドル		110円		118円		-8円
ユーロ		133円		133円		0円

2004年度 中間期 連結業績



■売上高増減要因

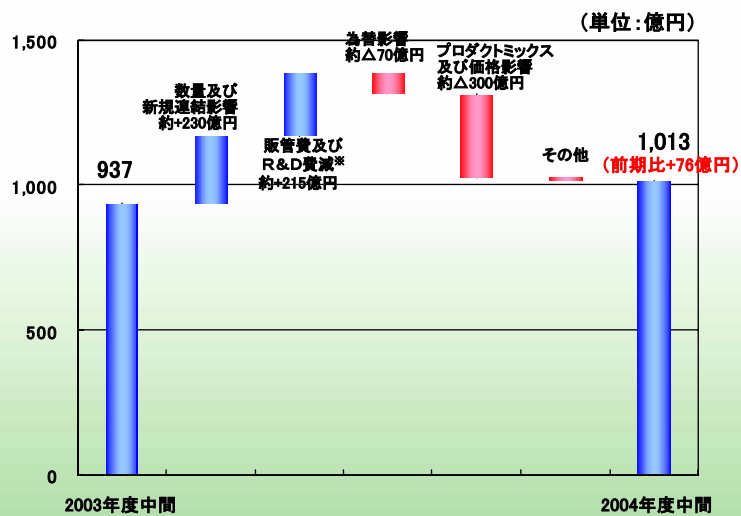


2

2004年度 中間期 連結業績



■営業利益増減要因



※「販管費及びR&D費減」は、厚生年金基金代行返上に伴う一過性の利益と未認識債務等の費用を含んでいます。

3

2004年度 中間期 連結業績

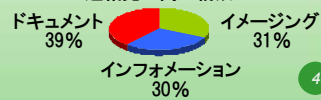


■ 事業別セグメント情報

(単位:億円)

	2004年度 中間期		2003年度 中間期		増減	
	金額	%	金額	%	金額	%
イメージング						
売上高	3,902		4,022		-120	-3.0
営業利益	43	1.1%	304	7.6%	-261	-86.0
インフォメーション						
売上高	3,780		3,789		-9	-0.2
営業利益	367	9.7%	343	9.0%	+24	+7.3
ドキュメント						
売上高	4,941		4,875		+66	+1.3
営業利益	605	12.2%	289	5.9%	+316	+108.8
消去						
売上高	-94		-89		-5	-
営業利益	-2		1		-3	-
合計						
売上高	12,529		12,597		-68	-0.5
営業利益	1,013	8.1%	937	7.4%	+76	+8.1

連結売上高の構成



4

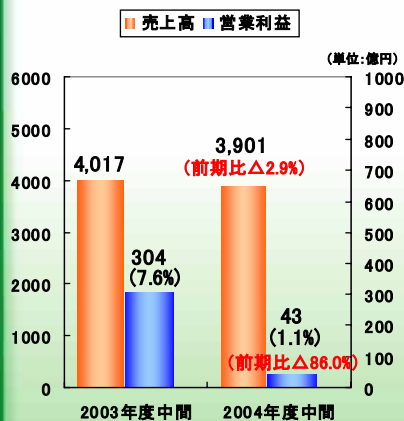
事業別セグメント情報



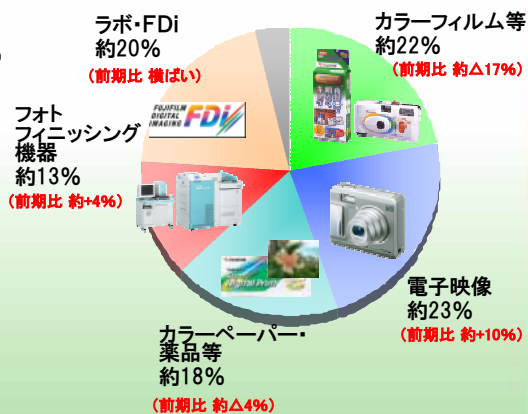
■ イメージング ソリューション

売上高*・営業利益

売上構成比



*セグメント間取引消去後



5

事業別セグメント情報

FUJIFILM

●カラーフィルム等



- 夏の花火シーズンを捉え、テレビCM等で写ルンです Night & Dayの宣伝を強化、国内での販売が好調に推移。
- 国内販売は数量ベースで、前期比 約2割減、海外は約12%減。
- ナチュラルフォトシステムを10月より国内で販売開始。

●カラーペーパー・薬品等



- 国内ではデジカメプリント「お店プリント」キャンペーンを推進。
- 国内販売は数量ベースで、前期比約6%減、海外ではデジタルミニラボの販売増の効果等により約4%増加。
(国内フロンティア導入店のデジカメプリント比率は、平均約26%まで上昇中。)

●フォトフィニッシング機器



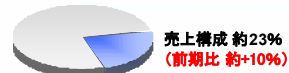
- デジタルミニラボの販売台数は、前期比約35%増の約4,900台。
- 北米を中心に海外でのデジタルミニラボの販売が引き続き好調に推移。

6

事業別セグメント情報

FUJIFILM

●電子映像



- 上期のデジタルカメラ販売台数は前期比約28%増の約320万台。
- デジカメ新製品を第2四半期に集中投入。
- 海外携帯電話メーカー向けにカメラモジュールの供給を開始。
- 電子映像事業の収益力強化に向けて諸施策を実施。

新製品の積極投入でラインアップを強化

FinePix E550



FinePix F810



FinePix F450



FinePix F455



FinePix S3 Pro

7

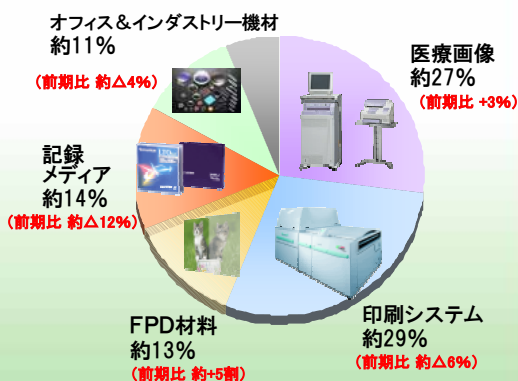
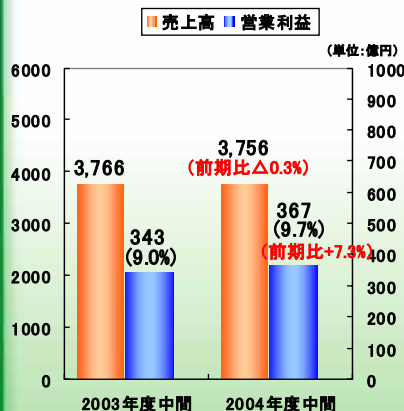
事業別セグメント情報

FUJIFILM

■インフォメーション ソリューション

売上高*・営業利益

売上構成比



*セグメント間取引消去後

8

事業別セグメント情報

FUJIFILM

●医療画像



- デジタルX線画像診断システム (FCR) の販売が順調に拡大。
- 新製品の発売も加わり、内視鏡事業が順調にビジネスを拡大中。

●印刷システム



- ワールドワイドでCTP化が進展し、当社CTP関連製品の販売が好調に推移。
- 8月にグローバル四極生産体制の米国生産拠点、サウスカロライナ工場でCTPプレート新製造ラインが稼働開始。欧州でも、2005年春にオランダ工場 でCTPプレートを生産開始予定。

<2004年9月発売>



CTP製造ラインが完成した
米国サウスカロライナ工場



電子内視鏡システム「サピエンティア」

- 世界初のフルデジタル内視鏡システム。
- 圧倒的にシャープで鮮明な映像で病巣の早期発見に抜群の威力を発揮。

9

事業別セグメント情報

FUJIFILM

●フラットパネルディスプレイ材料



- FPD材料事業の売上は、前期比約5割増の約500億円。
- パネルメーカーに生産調整の動きが見られるが、フジタック・WVフィルムへの需要は依然旺盛。
- 2004年8月、富士フィルムオプトマテリアルズにてフジタックの新工場が稼働開始。

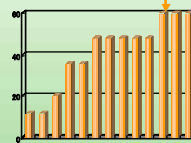
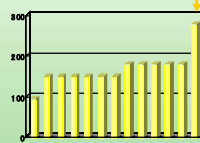
旺盛な需要に対しFPD材料の生産能力を増強中



富士フィルムオプトマテリアルズ
(静岡県吉田町)

＞ FPD材料の今後の生産能力増強計画

2005年10月～12月：フジタック新工場稼働開始
2005年4月：WVフィルム生産能力増強



10

事業別セグメント情報

FUJIFILM

●記録メディア



- IBM TotalStorage® Enterprise Tape Drive 3592用テープカートリッジを8月より富士フィルムブランドで発売。
- Super DLTtape™ I とLTO Ultrium 2 が販売好調。
- PHILIPS社に、世界初の16倍速を実現したDVD色素供給。
- 新製品投入と広告宣伝強化により、DVDメディア拡販を推進。

●オフィス&インダストリー機材



- カメラ付き携帯向けレンズユニットの供給拡大により、レンズビジネスの売上が伸長。



世界初の16倍速DVDディスク



ナノキュービックテクノロジー搭載
3592テープカートリッジ



「DIGI POWER22」

9月に欧州最大の放送機器展IBCで発表

*SuperDLTapeは、米国Quantum社の登録商標です。
*LTO、Ultriumは、Oerlan社、Hewlett-Packard社及びIBM社の米国及びその他の国における登録商標です。
*TotalStorageは、IBM Corp.の米国およびその他の国における登録商標です。

11

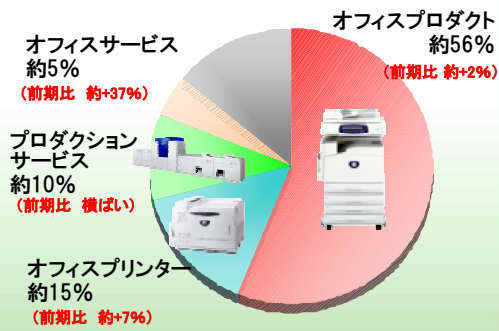
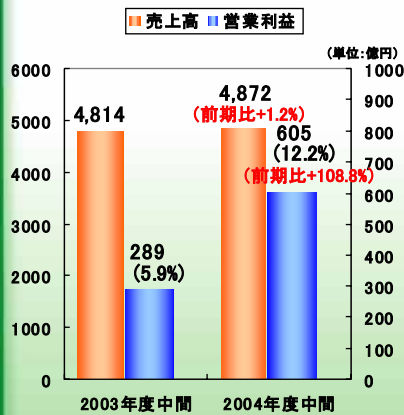
事業別セグメント情報



■ドキュメントソリューション

売上高*・営業利益

売上構成比



*セグメント間取引消去後

事業別セグメント情報



●オフィスプロダクト



- デジタルカラー複合機が国内で高成長を継続。
- 知的複合機「DocuCentre Color 新シリーズ」が引き続き好調に推移。
- デジタルカラー複合機の販売台数が国内で約5割増、ワールドワイドでは約3割増加。

●オフィスプリンター



- 海外での販売／海外への輸出が好調に推移。
- 販売台数ベースで、欧米向け輸出が前期比約35%増、アジア・オセアニアでの販売は倍増。国内では約10%減も、ワールドワイドでは約10%増。



デジタルフルカラー複合機
「DocuCentre Color
f450/f360/f250
a450/a360/a250」



DocuPrint 340A



DocuPrint 505

事業別セグメント情報

FUJIFILM

●プロダクションサービス



売上構成 約10%
(前期比 横ばい)

- デジタルカラー印刷システムの欧米向け輸出台数が倍増。
- 高速・高精細のフルカラーオンデマンド印刷システム「DocuColor iGen3」を市場導入。
- デジタル出力機器を一堂に会した「デジタルプリント・イノベーション支援センター epicenter(エピセンター)」が品川インターシティにオープン。

●オフィスサービス



売上構成 約5%
(前期比 約+37%)

- ドキュメントアウトソーシングビジネスが伸長。
- 中小規模事業所向けのインターネット環境提供サービス「beat」の売上が増加。
- 戸籍電子文書管理システムの販売好調。

プロダクションサービス主力製品



DocuColor iGen3 Digital Production Press

14

2004年度 通期連結業績見通し

FUJIFILM

■ 通期連結業績見通し

(単位:億円)

	今回発表		2004年7月30日発表		増減額	%
売上高	100.0%	26,100	100.0%	26,800	-700	-2.6
営業利益	6.3%	1,640	6.1%	1,640	0	0
税引前利益	6.1%	1,600	5.7%	1,540	+60	+3.9
当期純利益	3.2%	825	3.1%	825	0	0
為替: USドル		109円		108円	+1	-
ユーロ		132円		128円	+4	-

15

【VISION75】進捗状況①



● 新たな成長戦略の構築 – 将来を担う新規事業の創出 –

■ R&Dの取り組みと成果

■ 新規事業の育成

光デバイス／システム分野：光伝送システム「光DVIリンクシステム」

・富士写真フイルム：Gi型プラスチック光ファイバ「LUMISTAR(ルミスター)」

・富士ゼロックス：光送受信モジュール「VCSEL(ビクセル)・高速トランスミッター・レシーバー」

・フジノン：光学レンズモジュール

→ 映像送出機器と映像表示機器の30mクラスでのデジタル接続が可能。



光DVIリンクシステム

■ M&A・他社とのアライアンス強化

■ 「富士フイルム事業開発ファンド」を設立(総予算200億円)

第1号案件として、NTTデータと共同出資で株式会社メディアピックスを設立、10月1日より営業を開始。

■ アーチケミカルズ社の半導体関連プロセス材料事業部門である

「Microelectronic Materials」の買収に関する契約を締結。

16

【VISION75】進捗状況②



● 経営全般にわたる徹底的な構造改革

■ 国内流通・販売・生産体制の構造改革

■ イメージング部門における体制再編

10月1日、新販社・富士フイルムイメージングが発足。

これにより、富士フイルムグループのイメージング分野の国内営業機能及び特約店4社の営業機能を統合し、流通販売コストの削減を狙う。

■ 機器生産子会社5社を統合

2005年4月1日、FCRやフロンティア等を製造する富士機器工業やフジノン岡谷など、富士フイルムグループの機器生産子会社5社を統合。

● 連結経営の強化

■ キャッシュ・マネジメント・システム(CMS)の運用開始。

グループ会社の外部借入をグルーブローンに切り替えるとともに、グループ資金の一元管理を実施することで、富士フイルムグループにおける資金運用を効率化し、外部借入を削減。

17

【VISION75】進捗状況③

●富士ゼロックスの構造改革

■ 原価低減施策

- 中国への生産拠点集約による加工費改善等の効率化、部品の共通化・標準化の推進、グループ調達等調達コストの低減を実施。

■ 情報プロセス改革

- 情報プロセス基盤の再構築を通じて、物流・開発・事務等の効率化を推進。

■ 組織・整員改革

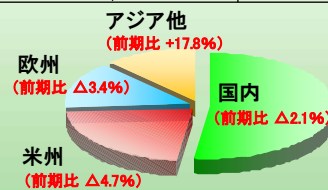
- 社内カンパニー制度を廃し、事業本部制に移行。
- 組織レイヤーのフラット化。
- 早期退職制度の導入や年金・退職金制度の見直しを始めとした総人件費改革を実施。

参考データ①

■ 国内・海外別売上高

(単位:億円)

	2004年度中間期		2003年度中間期		増減 %
	構成	金額	構成	金額	
国内	50.9%	6,375	51.7%	6,510	-2.1
海外					
米州	21.1%	2,649	22.1%	2,781	-4.7
欧州	14.2%	1,775	14.6%	1,838	-3.4
アジア他	13.8%	1,730	11.6%	1,468	+17.8
計	49.1%	6,154	48.3%	6,087	+1.1
合計	100.0%	12,529	100.0%	12,597	-0.5



参考データ②



■所在地別セグメント情報

(単位:億円)

		2004年度		2003年度		増減	
		中間期		中間期		増減額	%
日本	売上高		9,655		9,446	+209	+2.2
	営業利益	8.1%	785	7.2%	676	+109	+16.0
米州	売上高		2,297		2,455	-158	-6.4
	営業利益	3.0%	68	4.0%	98	-30	-30.8
欧州	売上高		1,441		1,512	-71	-4.7
	営業利益	6.5%	94	6.2%	94	0	0.0
アジア他	売上高		1,500		1,229	+271	+22.0
	営業利益	5.2%	78	8.0%	98	-20	-20.7
消去	売上高		-2,364		-2,045	-319	-
	営業利益		-12		-29	+17	-
合計	売上高		12,529		12,597	-68	-0.5
	営業利益	8.1%	1,013	7.4%	937	+76	+8.1

20

参考データ③



■設備投資、減価償却費、研究開発費

(単位:億円)

	2004年度		2003年度	
	中間期	(予)	中間期	
イメージング	261	-	273	491
インフォメーション	322	-	402	827
ドキュメント	129	-	90	289
設備投資 ※	712	1,650	765	1,607
イメージング	303	-	290	594
インフォメーション	270	-	277	549
ドキュメント	278	-	269	583
減価償却費	851	-	836	1,726
有形固定資産の減価償却費 ※	606	1,250	591	1,246
研究開発費	863	1,800	859	1,733
〈売上高比〉	6.8%	6.9%	6.8%	6.7%

※ ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く。

21

参考データ④



■総資産

(単位:億円)

	2004年9月30日	2004年3月31日	増減	
			増減	%
イメージング	7,761	7,270	491	+6.8
インフォメーション	7,818	7,675	143	+1.9
ドキュメント	9,265	9,713	-448	-4.6
計	24,844	24,658	+186	+0.8
セグメント間取引消去	-65	-57	-8	-
全社資産	5,188	5,634	-446	-7.9
連結合計	29,968	30,235	-267	-0.9

22

参考データ⑤



■為替

(単位:円)

	2004年度					2003年度				
	上期		下期 (予)	年度 (予)	年度 (予)	上期		下期 (予)	年度 (予)	
	1Q	2Q				1Q	2Q			
米ドル	110	110	110	108	109	119	118	118	108	113
ユーロ	132	134	133	130	132	133	133	133	132	132

■外国人持株比率

	2004.9.30	2004.3.31	2003.9.30
持株比率	44.9%	44.2%	44.4%

■期末人員

(単位:名)

	2004.9.30	2004.3.31	2003.9.30
単独	9,359	9,363	9,410
連結	74,870	73,164	73,646

23



富士写真フイルム株式会社
コーポレートコミュニケーション部 IR室
<http://www.fujifilm.co.jp/>